

日本生態学会中国四国地区会
ニュースレター (2008年 3月)

日本生態学会中国四国支部第51回大会（鳥取大会）報告

第51回日本生態学会中国四国支部大会が、日本動物学会中国四国支部および日本植物学会中国四国支部と合同で、2007年（平成19年）5月19日（土）-20日（日）の両日、鳥取大学工学部で開催された。参加者は、3学会合計で211名（うち生態学会62名）であった。生態学会での発表は、ポスター発表14題、口頭発表13題、発表題目と発表者は下記のとおりである。

なお、3学会合同の公開シンポジウム「遺伝子からみた生物の分布と保全 - ブナ・コナラの仲間とブナ林にすむ動物の遺伝的分化と保全 -」を行なった。同時に、6校の高校生によるポスターによる27題（うち生態学会関係は10題）の研究発表も行なわれた。

[ポスター発表] (5月19日)

1. ヨコヤアナジャコに付着共生する二枚貝マゴコロガイの採餌生態. ○伊谷 行, 吉田侑祐 (高知大学・教育学部)
2. 北海道におけるマザトウムシ*Phalangium opilio*の分布拡大と雄の2型. ○竹中宏二, 鶴崎展巨(鳥取大・地域・地域環境・生物)
3. 兵庫県とその周辺におけるザトウムシ3種の核型分化と交雑帯. ○鶴崎展巨, 谷口 強, 去来川園子(鳥取大学地域学部生物)
4. 瀬戸内海におけるナルトビエイの出現状況と食性. 吉田太輔¹, 泥谷明子², 坂井陽一², ○橋本博明² (広島大学・¹生物生産学部, ²院生物圏科学研究科・水圏資源生物)
5. 水鳥による池沼への栄養塩負荷量の算定. ○中村雅子¹, 牛山克巳², 江面康子³, 田尻浩伸³, 岡田貴行⁴, 松田賢二⁴, 神谷 要⁵, 嶋田哲郎⁶, 相崎守弘¹ (¹島根大・生物資源, ²北海道美唄市, ³(財)日本野鳥の会, ⁴国交省・関東地方整備局, ⁵(財)中海水鳥国際交流基金財団, ⁶(財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団)
6. 見逃されてきた酸性雨の植物影響: オオバコの成長が液相オキシダントの下で維持される機構. 鬼頭量平¹, ○小林 剛¹, 中谷暢丈² (¹香大・農, ²広大院・生物圏)
7. 森林の竹林化における根系土壌緊縛力の低下. ○皮 玲, 中根周歩(広島大学・生物圏科学研究科)
8. アカメガシワとアリの相互関係. ○山尾 僚¹, 波田善夫² (¹岡山理科大学・総情・生地, ²岡山理科大学・総情・生地)
9. コナラの種子と野ネズミの関係. ○矢野舞依子¹, 佐野淳之² (¹鳥取大・院・森林生態系管理学, ²鳥取大・農・FSC)
10. コナラのシュート構造. ○今田早織¹, 佐野淳之² (¹鳥取大・院・森林生態系管理学, ²鳥取大・農・FSC)
11. 植生調査により推定したコナラ芽生えの生育可能な植生. ○中田将人¹, 波田善夫² (¹岡山理科大学・総情・生地, ²岡山理大・総情・生地)
12. 高知県の中山間地における放棄棚田の復田による植生変化:いの町成山地区の事例. ○兼田侑也, 石川慎吾, 三宅 尚(高知大・院・理・自然環境)
13. 岡山県前島の植生. ○松岡憲吾¹, 財津一行², 太田謙³, 波田善夫² (¹岡山理科大学・総情・生地, ²岡山理科大学・総情・生地, ³岡山理科大学・総情・数環)

14. 千代川河川敷植生の構造. ○三谷真耶・福本愛弓・長尾明美・永松 大 (鳥取大・地域・地域環境・生物)

[口頭発表] (5月20日)

1. 鳥取県内でのツボミオオバコの分布拡大と繁殖戦略の観察. 清末幸久 (鳥取県立博物館)
2. チヂレゴケの極限環境耐性. ○進藤明彦¹, 松島 康¹, 小野文久¹, 西村直樹², 西平直美³, 三枝誠行¹ (¹岡山大学大学院自然科学研究科, ²岡山理科大学大学院総合情報研究科, ³岡山コケの会)
3. 有効容水量の新しい求め方と森林の植生と管理の違いが有効容水量に及ぼす影響. ○金行悦子, 中根周歩 (広島大学大学院・生物圏科学研究科)
4. 竹炭を用いた薄層屋上緑化における熱収支と水循環機能の蘇生. 河村 求¹, ○中根周歩² (¹広島大学・総合科学部, ²広島大学・生物圏科学研究科)
5. 瀬戸内海中西部におけるコブダイ (*Semicossyphus reticulatus*) の成長と発育に関する研究. ○越智雄一郎, 福井行雄, 橋本博明, 坂井陽一 (広島大学大学院・生物圏科学研究科)
6. 瀬戸内海中西部域におけるイイダコ *Octopus ocellatus* の資源生態
黒崎宏基¹, 坂井陽一², ○橋本博明² (広島大学・¹生物生産学部, ²院生物圏科学研究科・水圏資源生物)
7. 瀬戸内海におけるテナガダコ (*Octopus minor*) の資源生態学的研究. ○東出遼介, 坂井陽一, 橋本博明 (広島大学・生物圏科学研究科)
8. 大橋川におけるヤマトシジミとホトトギスガイの個体群動態-2006年夏の出水の影響. ○倉田健悟¹, 平塚純一² (¹島根大学汽水域研究センター, ²島根野生生物研究会)
9. 鳥取市平野部河川敷に生息するアカハライモリ集団で確認された遺伝的多様性の減少とその保全. ○小林朋道, 山下裕介 (鳥取環境大学・環境情報学部・環境政策学科)
10. 枯死木に発生する変形菌の樹種選好性. ○高橋和成¹, 波田善夫² (¹岡山理大院・総情, ²岡山理大)
11. 鳥取砂丘39年間の植生変化. ○永松 大, 富永彩恵 (鳥取大学・地域学部・地域環境)
12. トキワサンザシ・タチバナモドキの生態学的特性と河川における分布拡大の可能性.
宮口佑司, ○石川愼吾, 三宅 尚 (高知大・理)
13. 長崎県唐比湿原堆積物の花粉分析学的研. ○竹内 徹¹, 三好教夫¹, 畑中健一², 北岡豪一¹ (¹岡山理大・院・材質理, ²北九州大名誉教授)

[公開シンポジウム] 5月19日

遺伝子からみた生物の分布と保全 - ブナ・コナラの仲間とブナ林にすむ動物の遺伝的分化と保全 - (世話人: 佐野淳之・永松 大)

1. 遺伝子からみた東アジアのナラ類の変遷と環境適応. 原田 光 (愛媛大学農学部森林資源生物研究室)
2. 西日本におけるブナ集団の分布パターン, 遺伝的多様性, 保全のあり方. 戸丸信弘 (名古屋大学農学部生命農学研究科)
3. ブナ林をめぐるザトウムシのチェッカー盤型分布, 地理的分化と染色体交雑帯. 鶴崎展巨 (鳥取大学地域学部生物研究室)

[総会] (5月20日 11時30~12時30分 鳥取大学工学部大学院棟2階 ゼミナール室)

I. 開会の挨拶 中根地区会長

II. 総会議長の選出 議長に鳥取大学の佐野淳之氏を選出した

資料 1

①会員の状況

	2004年	2005年	2006年	2007年(2007.4末現在)			
				一般	学生	合計	増減
鳥取県	17	19	32	22	13	35	3
島根県	26	25	23	20	4	24	1
岡山県	36	37	48	36	20	56	8
広島県	103	90	88	57	32	89	1
山口県	20	21	18	17	1	18	0
香川県	14	15	14	11	2	13	-1
徳島県	18	19	19	12	10	22	3
高知県	28	29	24	24	1	25	1
愛媛県	32	29	32	30	11	41	9
合計	294	284	298	229	94	323	25

全国会員数	2004年(2004.12末現在)			2005年(2005.12末現在)			2006年(2006.12末現在)		
	一般	学生	合計	一般	学生	合計	一般	学生	合計
北海道	312	94	406	308	92	400	303	107	410
東北	191	46	237	183	38	221	182	48	230
関東	1024	250	1274	1034	258	1292	1037	287	1324
中部	402	94	496	421	104	525	415	119	534
近畿	461	170	631	467	183	650	464	200	664
中四国	229	73	302	230	74	304	229	86	315
九州	276	60	336	273	62	335	262	69	331
小計	2895	787	3682	2916	811	3727	2892	916	3808
団体等小計			200			189			177
合計			3882			3916			3985

②会費納入率(2006年12月末現在)

	2004年		2005年		2006年	
	一般	学生	一般	学生	一般	学生
北海道	92.6	79.8	94.5	96.6	92.5	78.5
東北	91.6	76.1	98.9	97.4	89.0	72.9
関東	91.3	72.4	97.6	92.2	91.0	71.8
中部	90.8	77.7	96.4	92.3	92.6	72.3
近畿	90.2	81.2	98.3	95.6	92.7	74.0
中四国	87.8	61.6	93.5	90.5	93.0	74.4
九州	88.4	81.7	96.3	88.7	91.9	73.9
平均率	90.4	75.8	96.5	93.3	91.8	74.0

Ⅲ. 報告

- 1) 庶務報告 事務局より資料にもとづいて会員状況、会費納入率等について報告があった(資料1)。
- 2) 会計報告 事務局より資料にもとづいて報告があった(資料2)
- 3) 中四国地区提出要望書(細見谷林道工事、上関原発)
アフターケア委員会報告 細見谷、上関の現況についての報告があった
- 4) 地区会報 No.60 の発行報告 事務局より「長島の自然(その2)」として発行されたことが報告された
- 5) 地区ホームページ管理委員会報告 安溪委員長よりホームページ開設の報告があった
- 6) 各種委員会報告
- 7) その他

Ⅳ. 承認事項

- 1) 2006年度会計決算 数値の誤りの修正の後、承認された(資料2)
- 2) 2008年度合同支部大会開催地 広島大学で行われることが承認された
- 3) 細見谷林道工事に係わる地区会要望書 「改めて、細見谷溪畔林(西中国山地国定公園)を縦貫する大規模林道事業の中止及び同溪畔林の保全措置を要望する」を提出したことが承認された
- 4) 細見谷アフターケア委員会長の交代 豊原源太郎氏から金井塚務氏への交代が承認された
- 5) その他

Ⅴ. 審議事項

- 1) 2007年度会計予算 資料3のとおり決定した
- 2) 2009年度合同支部大会開催地 高知で開催することが決定した
- 3) その他

Ⅵ. 閉会の辞

2006年度 一般会計決算

1. 収入の部 (単位は円)

項目	予算	決算	予算－決算
前年度繰越金	990,800	990,800	0
地区会費・還元金	250,000	400,311	-150,311
地区会報売上 (300部)	0	60,000	-60,000
預金利息	32	598	-566
合計	1,240,832	1,451,709	-210,877

2. 支出の部 (単位は円)

項目	予算	決算	予算－決算
地区大会援助費 (愛媛)	50,000	50,000	0
シンポジウム援助費 (愛媛)	10,000	10,000	0
地区会報印刷代・送料・ その他	400,000	397,337	2,663
地区ホームページ開設費	200,000	157,500	42,500
役員会会議費	15,000	11,000	4,000
通信費	2,000	0	2,000
幹事手当	20,000	20,000	0
諸費用	30,000	29,609	391
小計	727,000	675,446	51,554
予備費 (繰越金)	574,398	775,963	
合計	1,301,398	1,451,709	-150,311

2006年度 特別会計決算

1. 収入の部 (単位は円)

項目	予算	決算	予算－決算
前年度繰越金	160,766	160,766	0
預金利息	7	90	-83
合計	160,773	160,856	-83

2. 支出の部 (単位は円)

項目	予算	決算	予算－決算
予算措置なし	0		0
小計	0	0	0
予備費 (繰越金)	160,773	160,856	
合計	160,773	160,856	-83

資料 3

2007年度 一般会計予算

1. 収入の部 (単位は円)

項目	予算
前年度繰越金	775,963
地区会費・還元金	250,000
預金利息	598
合計	1,026,561

2. 支出の部 (単位は円)

項目	予算
地区大会援助費 (鳥取)	50,000
シポジウム援助費 (鳥取)	10,000
地区会報訂正版送料	43,000
地区ホームページ維持費	50,000
役員会会議費	15,000
地区会長選挙費	30,000
通信費	50,000
幹事手当	20,000
諸費用	30,000
特別会計へ振替	500,000
小計	798,000
予備費 (繰越金)	228,561
合計	1,026,561

2007年度 特別会計予算

1. 収入の部 (単位は円)

項目	予算
前年度繰越金	160,856
預金利息	90
一般会計費用より振替	500,000
合計	660,946

2. 支出の部 (単位は円)

項目	予算
アフターケア委員調査費	100,000
アフターケア委員交通費	100,000
小計	200,000
予備費 (繰越金)	460,946
合計	660,946

地区会長選挙結果

次期中国四国地区会長選挙の投票が2月末に締め切られ、2008年3月4日、奥田敏統氏の立会いのもとで開票を行った。結果は以下の通り。

選挙結果

投票総数	55	票
無効	2	票
白票	1	票

当選	石川慎吾	11	票
次点	中越信和	7	票
	波田善夫	5	票
	鎌田磨人	4	票
	国井秀伸	3	票
	3名	2	票
	16名	1	票

計		52	票
---	--	----	---

自然保護委員（地区選出）

安溪 遊地（留任）任期：2008年4月～2010年3月

太田 友直（新任）任期：2008年4月～2010年3月

地区会ホームページ編集管理委員会委員長の交代

新委員長 小林 剛

（安溪遊地旧委員長は委員として残留します）